

久喜市立郷土資料館だより ふ え 笛の音 ね 第 5 号



収蔵品展「ちょっとむかしの道具たち」の展示風景

収蔵品展 ちょっとむかしの道具たち

小学校地域学習副読本『わたしたちの久喜市』に掲載されている、民具を中心に展示しました。昭和 30 年代頃の暮らしの再現コーナーもあり、見どころ満載です。

会 期 1 月 28 日 (土) から 3 月 30 日 (木) まで

時 間 午前 10 時から午後 6 時まで

場 所 郷土資料館 展示室 2

休館日 月曜日 (祝日は開館)、2 月 24 日 (金)、3 月 21 日 (火)

目 次

- 神楽の世界⑤江戸時代の神楽 (中編)・・・ 2
- 久喜ゆかりの人物 中島敦・・・・・・・・・・ 2
- 名品? 珍品? 収蔵資料紹介⑤
木造不動明王坐像一円空仏一・・・・・・・・・・ 3
- 郷土資料館へのご意見ご要望について・・・ 3
- お知らせ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

神楽の世界 ⑤ 江戸時代の神楽 (中編)

わしのみやじんじや かぐら
鷲宮神社の神楽は、江戸時代中期の大宮司大内国久
ふじわらの (藤原国久ともいう) により神楽歌・催馬楽を取り入
れた 12 座の神楽に新たに編成されたと考えられてい
ます。それ以前の神楽は 36 座あったと伝えられてお
り、番外の「太刀折紙之舞」はその名残といわれています。

その時期については、享保 11 年 (1726) 正月に
国久が記した「土師一流 催馬楽神楽歌実録」という
神楽の服装・採物や神楽で歌う神楽歌・催馬楽等を記
した記録が写本で伝えられていることから、この頃
には成立していたと思われます。

天保年間 (1830~44) に大宮司大内国政が記した
「鷲宮旧正録」には、国久が廢れた祭祀を再興しよう
と志し、当社に伝えられてきた奥秘を社人に伝授し、
さらに神代のふるきを学んでこれを論し、古に戻って
12 座の神楽を宝永 5 年 (1708) 11 月 20 日と 21 日
に奏したとあります。このことから、宝永 5 年にす
でに 12 座の神楽が行われていたとみられますが、神
楽歌・催馬楽を伴うものであったかは不明です。こ
のとき執行された神楽は国久の手控によると「太々
神楽」とされ、正徳 5 年 (1715) 3 月晦日と 4 月 2 日、



土師一流催馬楽神楽歌実録

さらに享保 2 年 (1717) 3 月にも行われました。

その後、享保 11 年 (1726) 3 月 20 日から 24 日
にかけて「真太々神楽歌催馬楽」が行われました。こ
れは、同年 3 月 20 日の「鷲宮太明神屋根再興修 覆
棟札」によると、社殿の再興にあわせて神楽歌・催馬
楽を初めて諸社家・神楽役人に伝え、新神楽を奉奏し
たものでした。同年には神楽殿も再建されており、こ
の時、「催馬楽神楽」が初めて正式に行われたとみて
よいのではないかと思います。

(郷土資料館学芸員 栗原 史郎)

久喜ゆかりの人物

中島 敦

明治 42 年 (1909) ~ 昭和 17 年 (1942)



中島撫山の六男田人の子が作家の
中島敦です。敦は、明治 42 年 (1909)
5 月 5 日、東京市四谷区筆筒町 (現・
東京都新宿区三栄町) に生まれました。
敦が生まれて間もなく、父田人
と母千代は離婚したため、敦は父の
実家である久喜の祖父のもとに引き取られ、幼少時
から就学前まで久喜の地で過ごしました。祖父の撫山
は明治 44 年 (1911) 6 月に亡くなっているため、敦
に祖父の記憶はありませんが、父や伯父に養育される
中で、中島家の家学である漢学の素養を身につけ親し
んだものと思われます。

大正 3 年 (1914) に父田人が再婚すると、翌年敦
は奈良県郡山町 (現・大和郡山市) に中学校教員と
して勤務していた父のもとに引き取られ、その地の小
学校に入学しました。その後、敦は父の任地の異動に
伴い、静岡県の浜松市、朝鮮の京城と移りました。学
業優秀で、京城中学校では首席で通し、旧制の第一高

等学校、東京帝国大学文学部国文学科と進みました。
卒業後は昭和 8 年 (1933) に横浜高等女学校 (現・
横浜学園高等学校) に国語の教師として就職しました。

敦は高校時代から小説を書きはじめ、教師となっ
ても意欲的に作品を発表しますが、作家としてはな
かなか日の目を見ず、持病の喘息の発作に苦しめら
れるようになりました。そこで、教師を辞任し、療養を
かねてパラオ南洋庁へ書記として赴任しますが、体調
の改善にはいたらず、帰国して妻子のいる世田谷の父
の家に身を寄せることになりました。この間、小説へ
の創作意欲は高まり、次々と作品を書きあげ、「光と
風と夢」が雑誌『文学界』に発表され芥川賞候補と
なりました。しかし、持病の喘息により、昭和 17 年
(1942) 12 月 4 日、33 歳の若さで亡くなりました。

中国の古典に題材を得た「山月記」などの敦の作品
は、高校の教科書に採用され、現在でも幅広い読者
を得ています。

(郷土資料館学芸員 栗原 史郎)

収蔵資料紹介 ⑤

木造不動明王坐像

—円空仏—

江戸時代の遊行僧・円空（1632～95）は、各地の霊山を巡り、生涯で12万體もの仏像を彫ったと伝えられています。寛永9年（1632）に美濃国（現在の岐阜県）で生まれた円空は、23歳で寺を出奔し、30歳を過ぎてから仏像を彫り始めるまで、その半生は謎とされています。円空は木を割った断面や鑿跡を生かした仏像を数多く残しており、木の生命力を感じさせる素朴な仏像は円空仏と呼ばれ、今でも人々の心を惹きつけています。

市内に残る円空仏の一つに、菖蒲町河原井の幸福寺に伝わる円空作木造不動明王坐像（久喜市指定文化財）があります。郷土資料館の展示室1（常設展示室）の近世コーナーでは、この複製品を展示しています。

木造不動明王坐像は、樹齢35年程の杉の丸太を縦半割りにして、その断面に彫刻を施したものです。背面は樹皮を剥いだ木肌をそのままに、底には鋸による切断面が残されています。



円空作木造不動明王坐像

像の不動明王は、岩座に座し、肩からかかった条帛と裳をまとい、右手に魔を退散させ人々の煩惱を断ち切る宝剣、左手に煩惱から抜け出せない人々を縛り上げて救う羅刹を掴んでいます。上下の歯牙をあらわにし、忿怒の表情をしていますが、恐ろしい姿のなかにも、どこことなく優しい印象が感じられます。

この像は技法からみて、円空晩年のものと考えられ、天和・貞享から亡くなる元禄8年の間（1681～95）の作品とされています。

（郷土資料館学芸員 巻島 千明）

郷土資料館へのご意見ご要望について

特別展や各種講座等の機会にお寄せいただいたアンケートの中から、当館へのご意見ご要望についてお答えします。

1 疑問点を尋ねることができればありがたい。

当館では、学習相談レファレンスサービスを行っています。専門知識を有する学芸員が学習相談に応じますので、お気軽にお尋ねください。

2 鷲宮催馬楽神楽の一つ一つを映像で見たい。

当館の神楽ライブラリーでご覧いただけます。神楽ライブラリーでは、鷲宮催馬楽神楽の記録映像の貸し出しも行っていきます（貸出期間は1週間）。

3 昔の遊びコーナーがおもしろい。

ありがとうございます。昔の遊びコーナーは主に小学生以下の児童を対象とし、けん玉、将棋、メンコ、かるた、コマなど、昔ながらの遊びが常時無料で体験できます。また、久喜市の歴史・文化財に関するイラストぬり絵も多数用意しています。

4 昔のもの作りや道具の体験をしたい。

「子ども歴史広場」や「資料館まつり」で、伝統



昔の遊びコーナーの様子

行事や昔の遊びを体験する催しを行っています。詳しくは市広報紙やホームページ等でお知らせしますのでご覧ください。

5 展示を増やしてほしい。

展示スペースが限られることもあり、展示替えを適宜行っています。また、特別展や収蔵品展を開催するなかで、収蔵資料の紹介に努めています。

おわりに アンケートにご協力くださいました方々に心よりお礼申し上げます。今後の館運営の参考とさせていただきます。

第2回歴史講座 参加者募集

幕末日本に剣名を馳せた神道無念流の宗家戸賀崎氏（市内在住）から、宗家に伝わる歴史と剣技の特徴を解説していただく歴史講座を開催します。

日時 3月11日（土） 午後1時から受付
午後1時30分から午後3時まで

場所 郷土資料館視聴覚ホール

内容 幕末日本に剣名を馳せた神道無念流について—宗家戸賀崎氏が語る—

講師 戸賀崎正道さん（神道無念流戸賀崎練武道場恵文館館長）

対象 市内在住・在勤・在学者

定員 40人（申込順）

申込み 2月25日（土）10時から
直接または電話で、郷土資料館へ

郷土資料館ボランティアを募集します

郷土の歴史や文化財について学び、ボランティアとして活動してみませんか。

期間 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

場所 郷土資料館ほか

内容 展示案内の補助、子ども向け講座の実施、古文書整理の補助

対象 18歳以上で、郷土資料館の活動に理解のある方

申込み 直接または電話で、郷土資料館へ



展示案内の様子



電車で

- 東武伊勢崎線 鷲宮駅下車 徒歩15分
- JR宇都宮線 東鷲宮駅下車「加須川口循環」行きバス「図書館入口」下車 徒歩2分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから15分
久喜インターから15分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第5号

発行 平成29年（2017）2月24日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷲宮 5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日（祝日除く）、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります